



## 女性研究者支援 その真相に迫る!

「逆風を順風に〜宮崎大学女性研究者支援モデル」  
にまつわる情報や、他機関の話題をご紹介します

1月29日に熊本大学で開催された「全学的な男女共同参画フォーラム」へサポート室スタッフが参加しました。

フォーラムでは、京都大学理事・副学長の大西珠枝氏による講演の後、「学長を囲む女性研究者等の意見交換会」が催されました。すでに4回目となる座談会では、「熊本大学で女性研究者を増やすインセンティブを探せ!」というテーマで、部局長・女性研究者約40名が学内における女性の登用や効果的な取り組みの方針に関して活発な意見を交わしていました。

熊本大学は、文科省科学技術振興調整費「女性研究者支援モデル育成」の平成19年度採択機関で、すでに昨年度末に3ヶ年の計画期間を終えています。本フォーラムは、全学的な取り組みを継続することの重要性を学ぶよい機会となりました。

## サポート室からこんにちは

サポート室の取り組みや  
耳寄りな情報をお伝えします。



## 次年度分助成費等の公募について

～たくさんのお応募をお待ちしています～

サポート室では、科学技術振興調整費「女性研究者支援モデル育成事」による取り組みとして、女性研究者に対する研究支援を目的とした助成費等の制度を設けていますが、このたび、平成22年度分の公募を開始しました。

本事業は、平成20・21年度においても多くの方にご利用いただいています。制度によって応募資格などが異なりますので、詳しくはサポート室までお問い合わせいただくか、ホームページをご覧ください。

なお、「国際学会派遣(前期分)」、「出産・育児・介護に関わる女性教員に対する研究補助者雇用(4月～翌年3月雇用分)」の申請締切は2月26日(金)です。

たくさんのお応募をお待ちしています!

## essay

このコーナーでは、宮崎大学の教職員や学生の皆さんに登場していただき、女性研究者支援や、ご自身のご経験などをお寄せいただきます。今回は工学部の前田幸重さんが登場してくださいました。

### 『スタートライン』

#### 工学部 材料物理工学科 助教 前田 幸重さん

ちょうど博士論文を書き上げた頃、論文執筆から解放された身軽さで、私は1ヶ月ほど実験のためにスウェーデンに滞在した。現地の共同研究グループにも女子学生が1人居て、意気投合した私達は彼女の部屋でホットワインを舐めながら色々な話をした。

当時彼女にはドイツでポストクをしているフランス人の彼氏が居て、博士号取得後の事に関して、「原子力関係の職には付きたい。でも彼と結婚してフランスと一緒に生活したいので、アカデミックポストを狙うのは無理…」と言った。日本もス

ウェーデンも、研究を愛する若い女性の悩みは同じらしい。(いや、今や若手男性研究者も我々の仲間かもしれない。)

彼女の発言に共感した私は、それでもこう言った。「先人達のお陰で、今は女性も性差別を感じる事無く研究ができています。でも私達は、家庭と研究を両立するという新しいスタイルのフロンティアにならなくてはいけない!」

現在彼女は別の男性と結婚してドイツに職を得た。しかし、私は未だスタートラインにすら立っていない。

